

玉名の遺跡
シリーズ⑫

しゅふくじあと 寿福寺跡

玉名市繁根木所在

【お問い合わせ】

玉名市教育委員会
文化課文化係

TEL:0968-75-1136
bunka@city.tamana.lg.jp



『高瀬町図』部分（嘉永7年）『玉名市史・絵図地圖編』より

■絵図にみる寿福寺



寿福寺は、824（天長元）年に開山されたと伝わる天台宗の寺院で、高瀬五ヶ寺の一つです。また、繁根木八幡宮の神宮寺でした。江戸末期の絵図には、立派な楼門が描かれていますが、その正確な位置はわかっていません。

寿福寺の痕跡とその周辺

～ 各時代に及ぶ、土地利用の変遷 ～



旧寿福寺の本尊

寿福寺は、明治時代の廃仏毀釈によって廃寺となったため、その痕跡は失われていますが、一帯には石造物などが多く残っています。

また、古くは縄文時代の貝塚、弥生時代の集落があり、その後は古墳が築造され、中世以降は神社仏閣の造営、江戸時代には玉名郡代、大正時代には郡役所が置かれ行政の中心地となりました。



旧玉名郡役所（大正時代）

▲旧本尊は現在、菊池市の聖護寺にある銅造楽師如来像で江戸時代後期に豪潮が寺を再興した際に造立したものです。



跡地に残る石塔・石仏など



補陀落波海碑（県指定）

◀永禄11年、下野国の弘前上入らが海の彼方にあるという補陀落世界へ渡海する前に高瀬より大願成就を祈ったことなどを記念して建立されました。



繁根木貝塚の縄文土器



宝篋印塔（市指定）

▲寿福寺の住職だった豪潮が建立した石塔

■発掘調査の成果

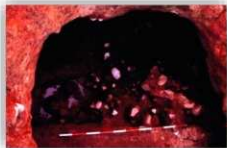
～ 地下式坑が語るもの ～



寿福寺跡の発掘調査（現・文化センター）

中世以降、寺院一帯は高瀬と共に門前町として賑わいをみせていましたが、戦国時代に龍造寺・大友・島津の争いに巻き込まれます。寿福寺の仏像や梵鐘などは持ち去られ、寺院は荒廃していったと考えられています。

昭和54年に実施された玉名市文化センター建設に伴う発掘調査では、寺院の建物跡は確認されませんでした。5基の地下式坑や井戸跡などが検出されています。遺物が少ないとされる地下式坑内からは珍しく、仏具や土師皿・瓦器などと共に中国からの輸入陶磁器も出土しており、当時の繁栄ぶりがかがえます。



高さ40cm

4号地下式坑と出土した火鉢

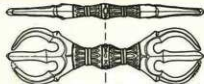
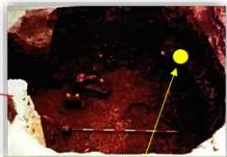
各地下式坑からは、すり鉢や石臼、古銭、舟形の木製品などが出土しています。遺物は14～16世紀代までであるようです。



寿福寺跡出土の土師皿



寿福寺跡の遺構配置図 □=地下式坑



1号地下式坑と出土した三鈷并

※古密教の仏具で、迷いやあらゆるものをうら破るとされています。

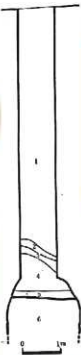


年 甲
造 午

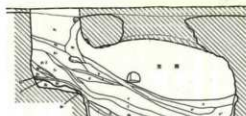
径8.9cm

中国産青釉陶器の小皿
(1号地下式坑出土)

この輸入陶磁器は、16世紀代とみられ、中世港湾都市の博多遺跡群の土坑から多量に出土しておるぞ。



3号井戸跡
(中世)



5号地下式坑の断面図



寿福寺出土の陶磁器

地下式坑は、戦国時代に流行したと考えられ、使用目的は密教に関するもの、埋葬、貯蔵などの説があります。